

食品安全情報（微生物） No.21 / 2018（2018.10.10）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. Gravel Ridge Farms 社の殻付き卵に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（2018年10月2日付更新情報、9月10日付初発情報）
2. ペット店の子犬との接触に関連して複数州にわたり発生した多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク（最終更新）
3. ペットのカメとの接触に関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella* Agbeni）感染アウトブレイク（最終更新）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（2018年10月2日付更新情報）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】](#)

1. レジオネラ症に注目

[【オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）】](#)

1. NethMap 2018：オランダにおける医学的に重要な細菌への抗微生物剤の使用および抗微生物剤耐性に関する報告書／MARAN 2018：2017年のオランダにおける種々の動物での抗微生物剤耐性および抗生物質使用のモニタリングに関する報告書

[【ProMed mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報
-

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<http://www.cdc.gov/>

1. Gravel Ridge Farms 社の殻付き卵に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク (2018年10月2日付更新情報、9月10日付初発情報)

Outbreak of *Salmonella* Infections Linked to Gravel Ridge Farms Shell Eggs

October 2 & September 10, 2018

<https://www.cdc.gov/salmonella/enteritidis-09-18/index.html>

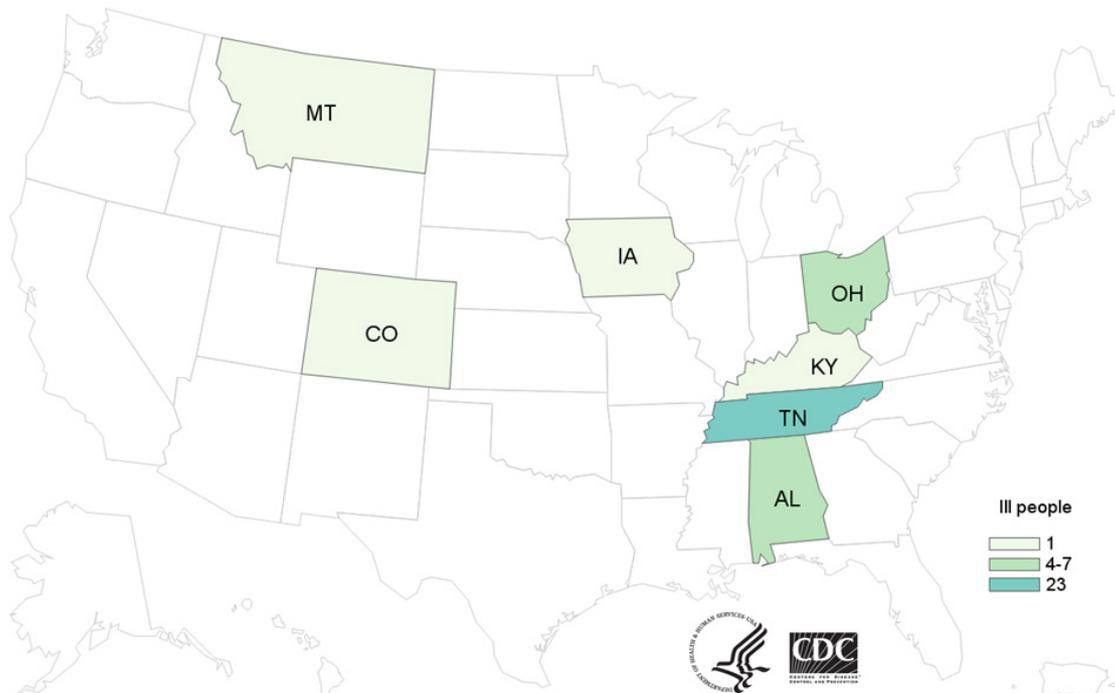
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、Gravel Ridge Farms 社の殻付き卵に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis) 感染アウトブレイクを調査している。

2018年10月2日付更新情報

2018年9月10日付の初発情報以降、新たに24人が本アウトブレイクの患者に追加された。

2018年10月1日時点で、サルモネラ (*S. Enteritidis*) アウトブレイク株感染患者が7州から計38人報告されている(図)。患者の発症日は2018年6月17日～8月16日である。患者の年齢範囲は1～94歳、年齢中央値は33歳で、57%が女性である。情報が得られた患者32人のうち10人(31%)が入院したが、死亡者は報告されていない。

図：サルモネラ (*Salmonella Enteritidis*) アウトブレイク株感染患者数 (2018年10月1日までに報告された居住州別患者数、n=38)



○アウトブレイク調査

州・地域の保健当局は、患者に対し、発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査を続けている。すでに聞き取りが行われた29人のうち22人(76%)がレストランでの卵料理の喫食を報告した。この割合は、健康な人に対して過去に行われた調査で回答者の38%が調査前1週間以内に外食で卵を喫食したと報告した結果と比べ、有意に高い。患者が卵料理を喫食したレストランは、患者が喫食した料理には殻付き卵を使用したと報告した。

FDA および複数州の食品規制当局は、これらのレストランに納入された殻付き卵の追跡調査を行った。その結果、患者22人のうち19人が食事をしたレストランに Gravel Ridge Farms 社 (アラバマ州 Cullman) が殻付き卵を納入していた。患者8人は、同社の殻付き卵が販売されていなかった州の居住者である。これら8人のうち6人は、同社の殻付き卵が販売された州に旅行していた。

同社施設の環境検体から *S. Enteritidis* アウトブレイク株が検出された。アラバマ州当局は同社施設から卵検体も採取した。検査の結果、これらの卵検体からも *S. Enteritidis* アウトブレイク株が検出された。

WGS (全ゲノムシーケンシング) 解析により、Gravel Ridge Farms 社施設の環境検体に由来するサルモネラ株は本アウトブレイク患者由来のサルモネラ株と遺伝学的に近縁

であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同社製の殻付き卵の喫食により発症したことを裏付ける更なるエビデンスとなっている。

本アウトブレイク調査は継続しており、CDCは更新情報を提供する予定である。

2018年9月10日付初発情報

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。PulseNetは、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、PFGE（パルスフィールドゲル電気泳動）法および WGS（全ゲノムシーケンシング）法によって DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは、PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者から分離されたサルモネラ株は遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

2018年9月7日時点で、サルモネラ (*S. Enteritidis*) アウトブレイク株感染患者がアラバマ、テネシーの2州から計14人報告されている。患者の発症日は2018年7月10日～8月7日である。患者の年齢範囲は1～94歳、年齢中央値は31歳で、50%が女性である。情報が得られた患者9人のうち2人（22%）が入院したが、死亡者は報告されていない。

○アウトブレイク調査

疫学・追跡調査から得られたエビデンスは、Gravel Ridge Farms 社（アラバマ州 Cullman）の殻付き卵が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。

患者に対し、発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が実施された。その結果、調査した14人のうち13人（93%）がレストランでの卵料理の喫食を報告した。この割合は、健康な人に対して過去に行われた調査で回答者の38%が調査前1週間以内に外食で卵を喫食したと報告した結果と比べ、有意に高い。患者が卵料理を喫食したレストランは、患者が喫食した料理には殻付き卵を使用したと報告した。

FDA および複数州の食品規制当局は、これらのレストランに供給された殻付き卵の追跡調査を行い、Gravel Ridge Farms 社を出荷元として特定した。

2018年9月8日、Gravel Ridge Farms 社は、Lサイズの平飼い卵にサルモネラ汚染の可能性があると、当該製品の回収を発表した。回収対象製品は、アラバマ、ジョージアおよびテネシー各州の食料品店およびレストランで販売または提供された。FDA の Web ページ (<https://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm619886.htm>) から、回収対象製品を販売した食料品店のリストが入手可能である。Gravel Ridge Farms 社製の平飼い卵 (Lサイズ)

を自宅で保存している消費者は、これらを喫食せず、購入店に返品するか廃棄すべきである。レストランや小売店は、当該殻付き卵の提供・販売を行うべきではない。

2. ペット店の子犬との接触に関連して複数州にわたり発生した多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク（最終更新）

Multistate Outbreak of Multidrug-Resistant *Campylobacter* Infections Linked to Contact with Pet Store Puppies (Final Update)

January 30, 2018

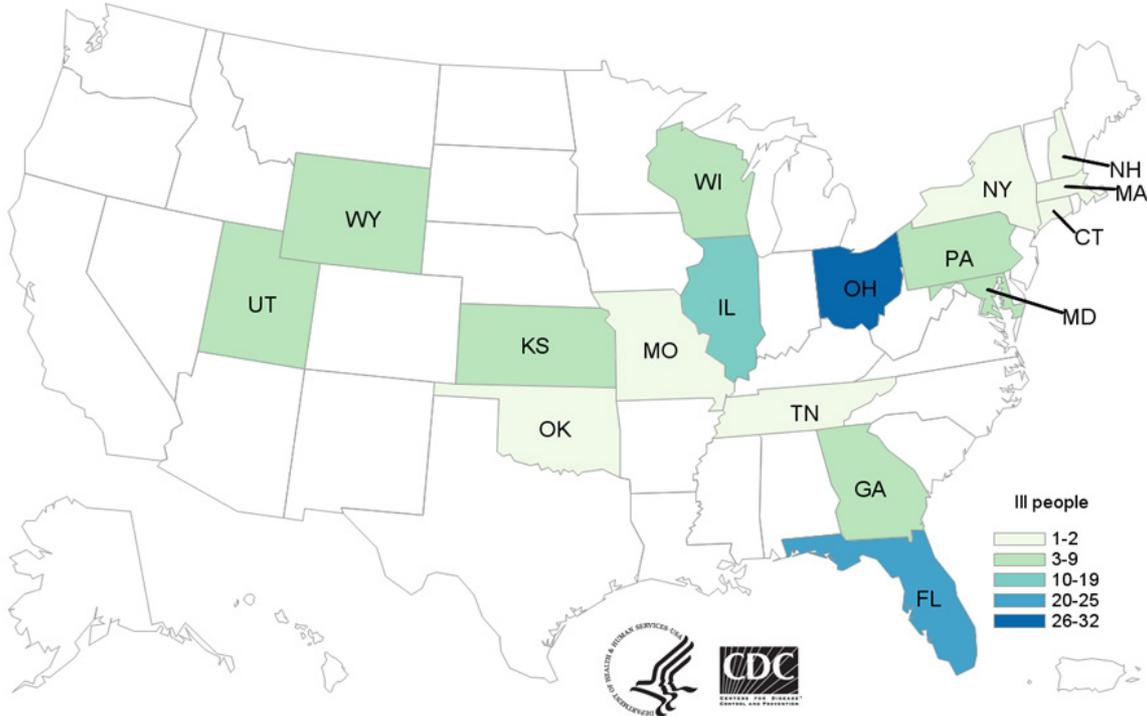
<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html>

患者数	患者発生州数	入院患者数	死亡者数
113 人	17 州	23 人	0 人

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の保健当局、および米国農務省動植物衛生検査局（USDA APHIS）は、複数州にわたり発生した多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイクを調査した。疫学調査および検査機関での検査の結果から、ペット店チェーン「ペットランド（Petland）」の複数店舗で販売された子犬との接触が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことが示された。本アウトブレイク調査は終了したが、子犬や成犬との接触によるカンピロバクター感染のリスクは十分認識されていない可能性があるため、今後も感染患者の発生が続くことがあり得る。

本アウトブレイクに関連して、検査機関確定患者またはカンピロバクター症に合致する症状を呈した患者が 2018 年 1 月 18 日までに 17 州から計 113 人報告された（図）。患者の発症日は 2016 年 1 月 12 日～2018 年 1 月 7 日であった。患者の年齢範囲は 1 歳未満～86 歳、年齢中央値は 27 歳で、患者の 63%が女性であった。情報が得られた患者 103 人のうち 23 人（22%）が入院したが、死亡者は報告されなかった。全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果、患者由来のカンピロバクター分離株は遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイク患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

図：ペット店の子犬に関連したカンピロバクター症患者（2018年1月18日までに報告された居住州別患者数、n=113）



本アウトブレイク患者の臨床検体由来のカンピロバクター分離株は、広く推奨される第一選択の抗生物質に耐性であった。これは、カンピロバクター症の治療に通常処方される抗生物質では、本アウトブレイクにおける感染症の治療が困難である可能性があることを意味する。抗生物質耐性は、入院、血流感染または治療不成功のリスクの上昇に関連する可能性がある。WGS 解析により、本アウトブレイク関連の患者 38 人および子犬 10 匹に由来する分離株の多くで、抗菌剤耐性に関連した複数の遺伝子および遺伝子変異が確認された。この結果は、本アウトブレイク関連の患者 5 人と子犬 7 匹に由来する分離株について、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) の検査機関が実施した標準的な抗生物質感受性試験の結果と一致していた。これらの 12 株は、アジスロマイシン、シプロフロキサシン、クリンダマイシン、エリスロマイシン、ナリジクス酸、テリスロマイシンおよびテトラサイクリンに耐性であった。さらに、これら 12 株のうち、10 株はゲンタマイシン、2 株はフロルフェニコールにも耐性であった。

患者に対し、発症前 1 週間の喫食歴および接触した動物に関する聞き取り調査が行われた。その結果、99%の患者が子犬との接触を報告し、87%がペットランドの子犬との接触またはペットランドの子犬との接触後に発症した人との接触を報告した。患者のうち 25 人がペットランドの従業員であった。

アウトブレイク調査の期間中、検査機関において、ペットランドの子犬から採取された

検体からカンピロバクターアウトブレイク株が分離された。WGS 解析の結果、本アウトブレイク患者由来およびペットランドの子犬由来のカンピロバクター分離株が遺伝学的に相互に近縁であることが示され、患者がペットランドの子犬との接触により感染したことを裏付けるさらなるエビデンスとなった。

患者が接触を報告した子犬は、犬種もペットランド店舗の所在地・州も様々であった。調査では、カンピロバクターアウトブレイク株に感染した子犬についてそれらに共通のブリーダーを特定することはできなかった。本アウトブレイクにおいて子犬は、流通チェーンのいずれかの段階、たとえばペットランドの各店舗への輸送時に、異なるブリーダーまたは配送業者由来の感染子犬との接触により感染した可能性がある。追跡調査の結果は、子犬でのカンピロバクター感染拡大の防止には、流通チェーン全般にわたる感染防止策の強化が必要であることを示している。

今回の多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイクにより、ペットへの責任ある抗生物質使用の必要性が強調された。抗生物質耐性の出現および拡大の防止に役立てるため、子犬の流通チェーンの全段階において、カンピロバクター感染予防のための最良実施規範、下痢症を呈した子犬への対応、および責任ある抗生物質使用について教育が必要である。ペット所有者は、所有の由来に関係なく、子犬および成犬はヒト疾患の原因となり得るカンピロバクターなどの病原菌を保菌している可能性があることを認識すべきである。子犬・成犬に接触した場合またはそれらの糞便を処理した場合は、必ずただちに石鹸と水で十分に手指を洗うべきである。また、飼い犬の疾患を予防するため健康維持について獣医師に相談すべきである。ペット所有者のための子犬・成犬取扱い時の感染予防に関する詳細情報が下記 Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html#petowners>

(食品安全情報 (微生物) No.1 / 2018 (2018.01.05)、No.24 / 2017 (2017.11.22)、No.21 / 2017 (2017.10.11) US CDC 記事参照)

3. ペットのカメとの接触に関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Agbeni) 感染アウトブレイク (最終更新)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Agbeni Infections Linked to Pet Turtles, 2017 (Final Update)

March 13, 2018

<https://www.cdc.gov/salmonella/agbeni-08-17/index.html>

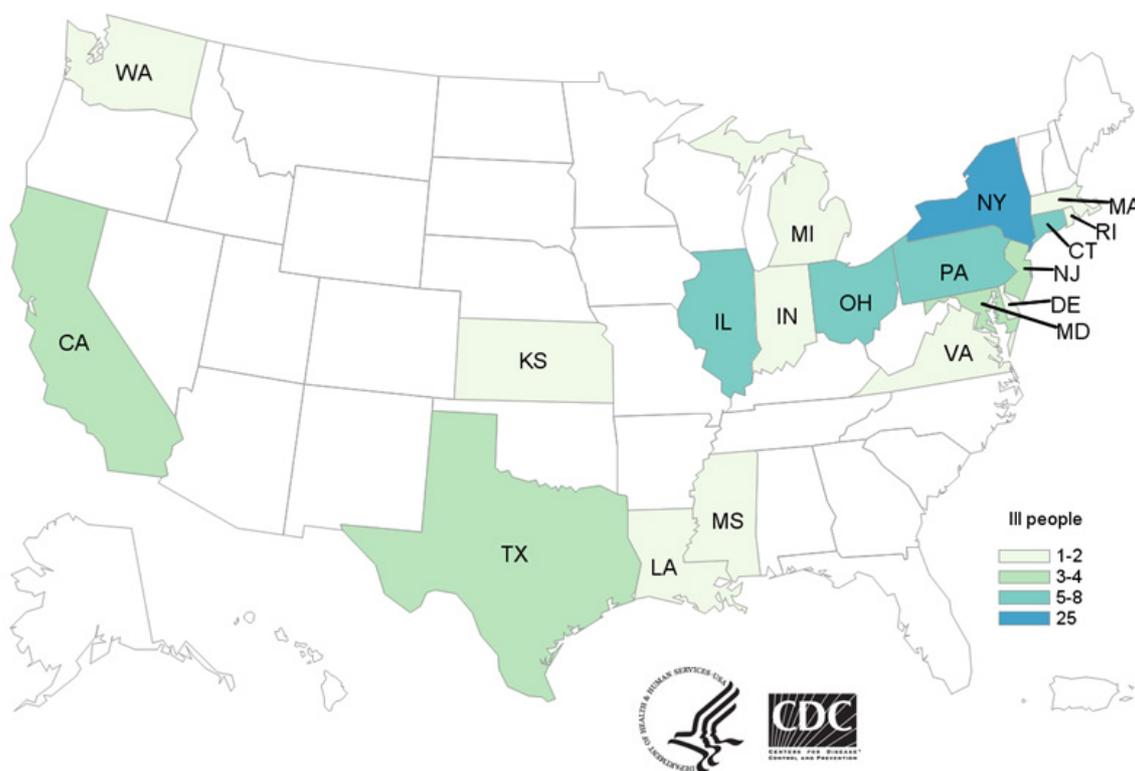
患者数	患者発生州数	入院患者数	死亡者数
76 人	19 州	30 人	0 人

○米国疾病予防管理センター（US CDC）および複数州の公衆衛生当局は、ペットのカメとの接触に関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella Agbeni*）感染アウトブレイクを調査した。

○本アウトブレイクでは、*S. Agbeni* アウトブレイク株の感染患者が 19 州から計 76 人報告された（図）。

- ・患者の発症日は 2017 年 3 月 1 日～12 月 1 日であった。
- ・情報が得られた患者 63 人のうち 30 人が入院した。死亡者の報告はなかった。
- ・患者のうち 24 人（32%）が 5 歳未満の小児であった。

図：ペットのカメとの接触に関連したサルモネラ（*Salmonella Agbeni*）感染患者（2018 年 3 月 9 日までに報告された居住州別患者数、n=76）



○疫学調査および検査機関での検査の結果から、本アウトブレイクはカメまたはその飼育環境（水など）への接触に関連していることが示された。

- ・患者に対し、発症前 1 週間における動物との接触について聞き取り調査が行われた。調査した 60 人のうち 23 人（38%）が、発症前にカメまたはその飼育環境（水など）と接触したことを報告した。
- ・カメとの接触を報告した 23 人のうち 14 人（61%）は、甲羅の長さが 4 インチ（約 10 センチ）未満の小型のカメとの接触を報告した。これらのカメは、露店から購入したか、贈り物として入手したものであった。
- ・2015 年に、複数の州・地域の保健当局は露店のカメから検体を採取していた。今回、全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果、本アウトブレイク患者由来の *S. Agbeni* 株は、露店のカメから分離された *S. Agbeni* 株と遺伝学的に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイク患者の感染がカメに関連している可能性が高いことを意味している。

○患者由来の 44 株について実施した WGS 解析の結果、43 株については抗生物質耐性の存在が予測されなかった。

・残りの患者由来 1 株には、ナリジクス酸およびシプロフロキサシンに対する耐性の存在が予測された。この株での耐性によって多くのアウトブレイク患者の治療に影響を受ける可能性は低い。

○CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）検査部門において、アウトブレイク株 4 株について標準的な手法を用いた抗生物質感受性試験が実施されたが、4 株ともいずれの抗菌剤に対しても耐性を示さなかった。

○小型のカメをペットとして購入したり、人に贈ったりしてはいけない。

- ・甲羅の長さが 4 インチ未満のカメは、特に低年齢小児においてサルモネラ感染に関連することが多いため、米国食品医薬品局（FDA）は、1975 年以降、ペットとしての当該カメの販売・出荷を禁止している。

○健康で清潔に見えても、大きさに関係なくすべてのカメにはサルモネラ汚染の可能性がある。本アウトブレイクは、ペットとしての爬虫類の飼育を楽しみつつ家族を健康に保つためには、簡単な方法（<https://www.cdc.gov/Features/salmonellafrogturtle/>）を実践すればよいことを再確認させるものである。

○本アウトブレイクの調査は終了した。しかし、ペットのカメとの接触によりサルモネラに感染する可能性があることを認識していない消費者がいることから、今後も患者が発生する可能性がある。

（食品安全情報（微生物）No.25 / 2017（2017.12.06）US CDC 記事参照）

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連して発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（2018年10月2日付更新情報）

Public Health Notice - Outbreaks of *Salmonella* infections linked to raw chicken, including frozen raw breaded chicken products

October 2, 2018 – Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2018/outbreaks-salmonella-infections-linked-raw-chicken-including-frozen-raw-breaded-chicken-products.html>

カナダ公衆衛生局 (PHAC) は、複数の州・準州の公衆衛生当局、カナダ食品検査庁 (CFIA) およびカナダ保健省 (Health Canada) と協力し、パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連してカナダ国内で発生しているサルモネラ感染アウトブレイクを調査している。

2018年9月13日、カナダの主任医務官協議会 (Canada's Council of Chief Medical Officers of Health) は、チキンナゲット、チキンストリップ、チキンバーガー、ポップコーンチキン、チキンフライなどのパン粉付き冷凍生鶏肉製品の取扱い・調理・喫食の際は適切な食品安全慣習に従うようカナダ国民に対して助言を発表した。

生の鶏肉を含有するパン粉付き冷凍生鶏肉製品を完全に加熱しなかった場合、これらの取扱い・調理・喫食には大きな健康リスクが伴う。この種の製品は加熱済みか軽く火を通してあるように見えるかもしれないが、取扱いや調理には注意が必要である。このような製品を喫食する際は、製品の指示に注意深く従って調理を行い、加熱後に中心温度が推奨温度に達していることを確認することで感染を防ぐことが可能である。パン粉付き冷凍生鶏肉製品および生の鶏カット肉を安全に喫食するためには、中心温度が 74°C (165°F) 以上になるまで加熱する必要がある。また、丸鶏の場合は中心温度が 82°C (180°F) 以上になるまで加熱する必要がある。

これまでの調査の概要

2017年5月、カナダ政府当局は、アウトブレイクの特定期および対応のために全ゲノムシーケンシング (WGS) 技術の使用を開始した。過去1年半にわたり、連邦・州・準州の公衆衛生・食品安全当局は、パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連してカナダ国内で発生したアウトブレイク 13 件について調査を行った。CFIA は、これらの調査で関

連が認められた 8 種類の製品について食品回収警報を発した。

パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連してカナダで発生した 13 件のサルモネラ感染アウトブレイクでは、2018 年 10 月 2 日までに検査機関確定患者 433 人が報告されている。患者数の州・準州別の内訳は、ブリティッシュ・コロンビア (36 人)、アルバータ (64)、サスカチュワン (14)、マニトバ (20)、オンタリオ (151)、ケベック (101)、ニューブランズウィック (23)、ノバスコシア (9)、プリンス・エドワード・アイランド (1)、ニューファンドランド・ラブラドール (10)、ノースウエスト準州 (1)、ユーコン準州 (1) およびヌナブト準州 (2) である。このうち 86 人が入院した。患者のうち 3 人が死亡したが、このうち 2 人はサルモネラ感染が死因ではなく、残りの 1 人はサルモネラ感染が死因に寄与したかどうかは明らかではない。様々な年齢のカナダ人男女が感染している。

このような種類の食品に起因する現時点でのリスクをカナダ国民に再認識させるため、パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連して発生し現在調査中のサルモネラ感染アウトブレイクおよび関連する食品回収警報については、以下の「現在調査中のアウトブレイク」の項に記載予定である。

現在調査中のアウトブレイク

パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連してカナダ国内で発生し、現在 PHAC の統括のもとに調査中のサルモネラ感染アウトブレイクは以下の 2 件である。

○1 件目

・2018 年 10 月 2 日付更新情報－*Salmonella* Enteritidis

現在、本アウトブレイクではアルバータ、マニトバ、オンタリオおよびケベックの 4 州から患者計 4 人が報告されている。入院患者および死亡者は報告されていない。原因食品としてパン粉付き冷凍生鶏肉製品が特定された。

・2018 年 10 月 2 日付製品回収情報

ブランド名なしの「チキンフライ (\$10 Chicken Fries) 1.81kg」

賞味期限：2019 年 6 月 22 日

UPC コード：0 60249 01411 4

当該製品は全国に出荷された。

○2 件目

・2018 年 10 月 1 日付更新情報－*Salmonella* Enteritidis

現在、本アウトブレイクでは 8 州から患者計 47 人が報告されており、患者数の州別の内訳は、ブリティッシュ・コロンビア (1 人)、アルバータ (7)、サスカチュワン (1)、マニトバ (2)、オンタリオ (21)、ケベック (13)、ニューブランズウィック (1) およびノバスコシア (1) である。11 人が入院した。死亡者は報告されていない。原因食品としてパン粉付き冷凍生鶏肉製品が特定された。

・2018年7月20日付製品回収情報

No Name ブランド「チキンナゲット (Chicken Nuggets) 907g」

賞味期限：2019年5月15日（外装に表示）

ロットコード：1358M（内袋に表示）

UPCコード：0 60383 89685 0

当該製品は全国に出荷された。

消費者、小売業者およびレストランは、回収対象製品の喫食、販売、提供を行うべきではない。

パン粉付き冷凍生鶏肉製品などの生の鶏肉に関連してカナダ国内で発生したサルモネラ感染アウトブレイクについて、2017年5月以降に PHAC の統括のもとに行われ現在は終了している調査の情報が本公衆衛生通知から入手可能である。

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2018年9月22日～10月5日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

イタリア産モルタデッラ (ピスタチオ入り) のリステリア (*L. monocytogenes*, 90 CFU/g)、ベルギー産冷凍牛ひき肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍鶏もも肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, *S. Infantis*, とともに 25g 検体陽性)、ポルトガル産活カブトノシコロガイ (フランスで浄化) の大腸菌 (930 MPN/100g)、ポーランド産冷凍鶏肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ギリシャ産活ムラサキイガイの大腸菌 (1,300 MPN/100g)、ポーラン

ド産冷凍鶏むね肉（豚肉・セージ・タマネギ詰め）のサルモネラ（25g 検体 3/5 陽性）など。

注意喚起情報（Information for Attention）

オランダ産チーズキューブのサルモネラ（25g 検体陽性）、ポーランド産冷蔵鶏肉製品のカンピロバクター（～2,200 CFU/g）、アイルランド産ハウレンソウとフダンソウ（red chard）のリストeria（*L. monocytogenes*、25g 検体陽性）、オランダ産冷蔵ひき肉（デンマーク経由）のサルモネラ、ベルギー産冷蔵鶏とたい（機械分離肉用）のサルモネラ（*S. Typhimurium*、25g 検体陽性）、スロベニア産冷蔵七面鳥肉製品のサルモネラ（25g 検体陽性）、スロベニア産冷蔵鶏肉ハンバーガーのサルモネラ（25g 検体陽性）、ノルウェー産冷蔵サバ（*Scorbrus scorbrus*）の寄生虫（アニサキスと推定）、トルコ産イヌ用餌のサルモネラ（25g 検体陽性）、アルゼンチン産ローストビーフの志賀毒素産生性大腸菌（*stx1+*、*stx2+*、*eae*、*aatA*、25g 検体陽性）など。

フォローアップ喚起情報（Information for follow-up）

ポーランド産冷凍ブロイラー脚肉のサルモネラ（*S. Infantis*、25g 検体 1/5 陽性）、ポーランド産冷凍鶏骨付きもも肉（エストニア経由）のサルモネラ（*S. Infantis*、25g 検体 3/5 陽性）、ノルウェー産冷凍ニシンのリストeria（*L. monocytogenes*、<10 CFU/g）、デンマーク産レモネードのカビ、冷凍有機ハウレンソウ・豆腐（トルコ産原材料使用）のリストeria（*L. monocytogenes*、2,000・10,000 CFU/g）、アイスランド産冷蔵タラ（*Gadus morhua*）ロイン（フランスで包装）のアニサキスなど。

通関拒否通知（Border Rejection）

ブラジル産冷凍牛肉（骨なし）の志賀毒素産生性大腸菌（*stx2+*、25g 検体陽性）、スーダン産白ゴマ種子のサルモネラ（*S. Kisarawe*、25g 検体 1/5 陽性）、米国産魚粉（デンマーク経由）のサルモネラ（25g 検体陽性）、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ（*S. Corvallis*、25g 検体 2/5 陽性）、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ（*S. Johannesburg*、25g 検体 2/5 陽性）、ナイジェリア産皮むきゴマ種子（トルコ経由）のサルモネラ（*S. Havana*、25g 検体 1/5 陽性）、インド産皮むきゴマ種子のサルモネラ（25g 検体 1/5 陽性）、アルゼンチン産冷蔵牛肉（真空包装）の志賀毒素産生性大腸菌（*stx2+*、25g 検体陽性）、メキシコ産ドッグフードのサルモネラ（*S. Anatum*、25g 検体 1/5 陽性）など。

● アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland）

<http://www.hpsc.ie>

レジオネラ症に注目

Legionellosis in the spotlight

EPI-Insight volume 19 issue 7

July 2018

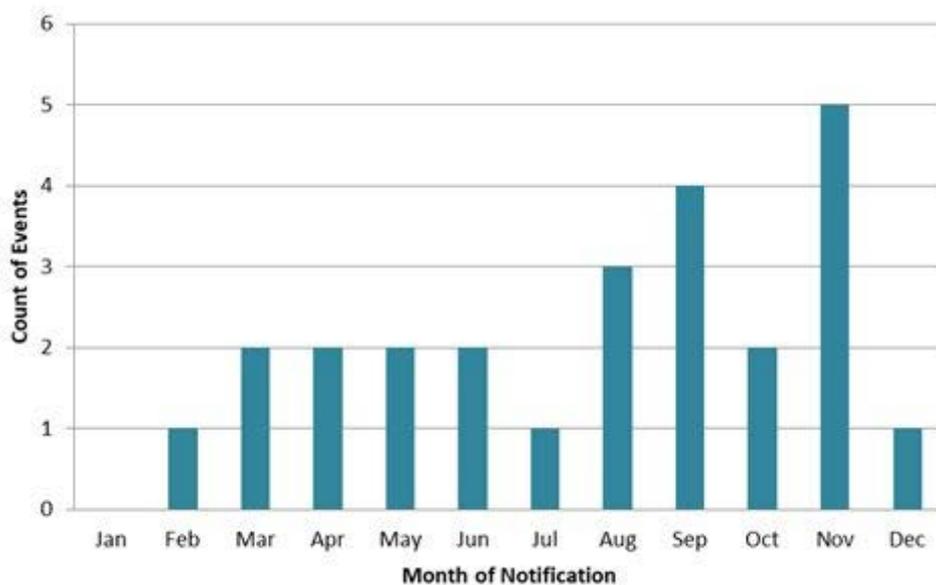
<http://ndsc.newsweaver.ie/epiinsight/1trsljhg5yy10gkzp9yxn5?a=1&p=53582191&t=17517774>

アイルランドのレジオネラ症の疫学状況（2017年の更新情報）

アイルランドでは2017年にレジオネラ症患者25人が報告され、罹患率は人口100万人あたり5.3人で、2016年の2.1人より上昇した。

秋季に報告患者が多いとされる季節性が2017年も明らかで、全患者の半数以上が8～11月に報告された（図1）。

図1：アイルランドでの報告月別のレジオネラ症患者数（2017年）



患者の大多数が男性であった（60%）。患者の年齢中央値は62歳で、年齢範囲は39～90歳であった。

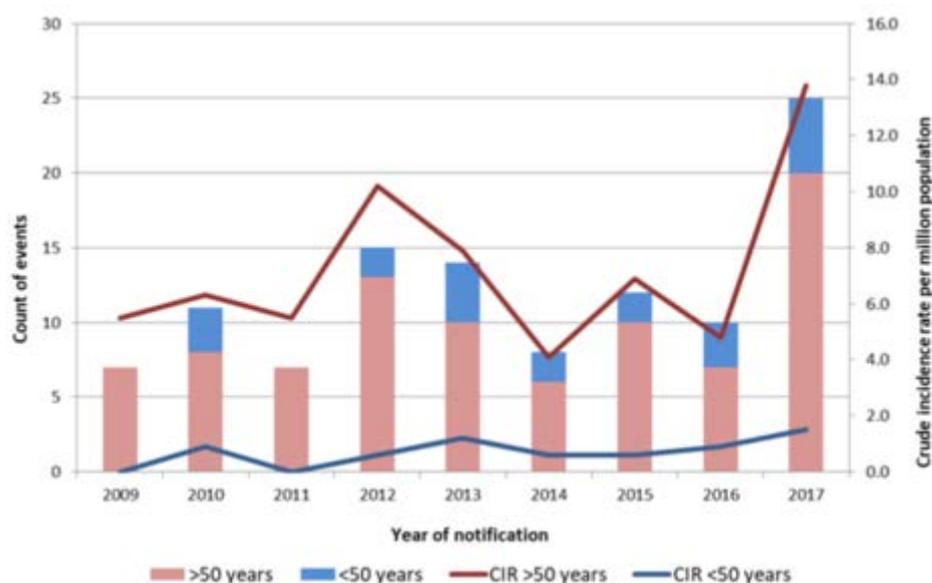
患者は25人全員が *Legionella pneumophila* 感染確定患者であった。尿中抗原検査（UAT）によって84%の患者（21人）から *L. pneumophila* 血清群1が検出された。また、喀痰検体の培養により患者2人から血清群2～14が検出された。残りの2人は血清群不明であった。

患者のうち11人（44%）が国外旅行関連で、旅行先はスペイン（2人）、トルコ（2）、英国（2）、ドイツ（1）、イタリア（1）、セルビア（1）、アラブ首長国連邦（1）および

米国（1）であった。残りの患者のうち同じく 11 人が国内での市中感染と考えられた。データの欠如により 3 人は感染場所が不明であった。

複数年にわたるデータを解析すると、高齢者層がレジオネラ症の被害をより多く受けることがわかる。2009～2017年の各年で、レジオネラ症の患者は50歳超の年齢層で50歳未満の若年層より多く発生している(図2)。若年層での粗罹患率(CIR: crude incidence rate)は複数年にわたり低い値に落ち着いており、人口100万人あたり2人未満である。これに対し、50歳超の年齢層の粗罹患率は一貫して高いが、経年変動がみられ、2017年が最も高く人口100万人あたり13.8人であった。

図2：アイルランドの年齢層別のレジオネラ症患者数および人口100万人あたりの罹患率(2009～2017年)



● オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM: Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu)

<http://www.rivm.nl/>

NethMap 2018：オランダにおける医学的に重要な細菌への抗微生物剤の使用および抗微生物剤耐性に関する報告書/**MARAN 2018**：2017年のオランダにおける種々の動物での抗微生物剤耐性および抗生物質使用のモニタリングに関する報告書

NethMap 2018: Consumption of antimicrobial agents and antimicrobial resistance

among medically important bacteria in the Netherlands / MARAN 2018: Monitoring of Antimicrobial Resistance and Antibiotic Usage in Animals in the Netherlands in 2017
2018-06-27

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2018-0046.pdf> (報告書全文 PDF)

<https://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2018-0046.html>

抗生物質耐性菌の数は世界的に増加している。オランダ国内の抗生物質耐性菌の数は概ねかなり安定した状態を保っているが、懸念や警戒の要因は存在している。耐性菌の一種である基質特異性拡張型βラクタマーゼ (ESBL) 産生性腸内細菌は、過去5年間に一般診療医 (GP) および病院の患者でより頻繁に見られるようになった。ESBLは、ペニシリンなどの一般的に使用される抗生物質を分解する酵素である。これらのESBL産生菌は、抗生物質耐性のため治療が難しくなる膀胱感染などの無症状の感染の原因となり得る。また、最終選択肢としてのみ使用されるタイプの抗生物質を一層頻繁に使用せざるを得なくなる。

耐性の出現を防ぐためには、抗生物質を適切に、また必要に応じて使用することが重要である。近年、GPが処方する抗生物質の量は減少している。一方、病院では2016年の抗生物質の総使用量は2015年より増加している。2017年の動物への抗生物質の総使用量は、結果的に2016年と同程度であった。抗生物質の使用量は、動物の分野によって減少とわずかな増加の両方が見られた。ヒトにとって重要な抗生物質は、動物分野での使用が限定されている。ESBL産生菌の汚染率は、食肉用の子牛では上昇したが、食品の製造に使用されるその他のほぼすべての動物種では更なる低下が見られた。

以上の結果はNethMap/MARANの2018年次報告書により明らかで、この報告書には、オランダでのヒトおよび動物における抗生物質の使用および耐性に関するデータを様々な機関が合同で発表している。

過去2年間にオランダでは、抗生物質耐性を食い止めるために特別な対策が講じられてきた。これらの対策は医療の分野に限られたものではない。本質的な問題として、耐性菌は国境に関係なく、また、動物・食品・環境 (One Health) のいずれにも生じる。One Healthに沿った取組みを後押しするため、2017年に「地域協力ネットワーク」が導入された。このネットワークは、抗生物質耐性の予防・阻止に関して様々な分野の医療専門家の相互協力を促す役割を担っている。また、介護施設における抗生物質耐性に対する注目も高まっている。一例を挙げると、新しい研究で入所者の耐性菌保菌率が調査されている。この研究の結果は2018年末に発表される予定である。

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2018 (38)

3 October 2018

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	10/2			(疑い)約 10,000/週	
			1~8月	(疑い)154,527	196
			1~9月	(疑い)185,160	
			9月第1週	(疑い)約 11,500	
			8月最終週	(疑い)約 9,425	
			2017年4月~	(疑い)1,200,000	2,515
		セーブ・ザ・チルドレン支援の保健センター	7月	(疑い)732	
		同上	8月	(疑い)1,342	
イエメン	9/28	イッブ県 (Ibb)	1~6月	1,000 未満/月 (約 30/日)	
			9月の最初の2週間	約 21,000 (約 1,500/日)	

イエメンのコレラ (2018年の累積患者数)

日付	累積患者数	累積死亡者数
2018/1/7	1,029,717	2,241
2018/1/21	1,046,674	2,248
2018/1/28	1,051,798	2,252
2018/2/18	1,063,786	2,258
2018/3/17	1,080,422	2,266
2018/3/25	1,084,191	2,267
2018/4/14	1,089,507	2,274
2018/5/24	1,100,720	2,291
2018/6/10	1,107,144	未発表
2018/7/1	1,115,378	2,310

(2017年12月以前のデータについては食品安全情報(微生物) No.3 / 2018 を参照)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室